

# 持続可能な開発を実現させるための 地球環境維持に向けた身近な実践活動

## 彦根市立西中学校

持続可能な開発を実現させるための地球環境維持に向けて、生徒が身近な環境について考え、ボランティア活動を中心にして主体的に活動できる取組を行った。

### 1 本校の概要

本校は、国宝彦根城の内堀と中堀の間に位置し、彦根藩の藩校（弘道館）跡に立地する伝統ある学校である。また、周囲を石垣や木々が囲み、緑あふれる静かな環境で、四季折々の表情がうかがえる。しかも、近くには琵琶湖があり、豊かな自然環境に恵まれている。

そこで、本校では、身近な自然環境をいかし、持続可能な開発を実現させるための地球環境維持に向けた実践活動に取り組んでいる。そのひとつとして、ボランティア活動を中心にした「西中HOTはーと大作戦」と題する、生徒が主体的に活動する取組を行っている。

### 2 西中学校の環境教育

#### (1) ねらい

ESD（持続発展教育）の視点に立ち、郷土の身近な自然や文化、生活環境に触れ、持続可能な地球環境づくりに向けて、自然愛護の心と文化保存、環境保全の態度を育成する。

学校や郷土を美しくする活動を通して、環境保全の実践的態度を育成する。

ボランティア活動や地域活動への参加による郷土の理解と環境に対する意識を高める。

よりよい学校（学習）環境づくりに積極的に参加する実践的な態度を育成する。

#### (2) 環境教育指導の重点

「ごみゼロの日」や「びわこの日」、「県下一斉清掃の日」の取組を中心として、計画的に実施する。その際に、企画から運営までを生徒に担当させ、主体的な活動となるように進める。清掃活動に関しては、全校での取組内容を統一化し進めていく。特に、清掃担当者と学級担任との連携を確実にし、やり直しを徹底させる。また、整備委員会を中心にして掃除用具を整備・管理し、充実した清掃活動ができるようにする。

生徒一人ひとりの美化意識を高めるため、週一回、個人ロッカーの整理整頓の時間を設ける。

### 3 実践事例

#### (1) 省エネ（節電）の呼びかけ

東日本大震災以降の全国的な電力不足に対して関西電力からの協力依頼として、整備委員会を中心に節電の呼びかけを行った。休み時間の消灯、窓側の消灯など継続して取り組んだことで、前年度の電気使用量と比較して抑えることができた。

#### (2) 「ごみゼロの日」（5月30日に関して）

例年は7月1日の「びわこの日」に合わせて実施していたが、天候による健康管理への影響などを考慮して、「ごみゼロの日」に合わせて、校区内にある2つの小学校と共同で湖岸清掃を実施した。琵琶湖の環境を考える機会となるとともに、小学生とも合同で行うためリーダー性を養う場にもなっている。また、地域の方の参加も多く地域・小・中の交流の機会となっている。



【小中合同湖岸清掃】

#### (生徒の感想)

びわ湖がきれいになってよかった。これからもびわ湖をきれいな状態でたもつために、ポイ捨てなどはしないようにしたいです。今回のような学校の行事だけではなく、見かけた

らずぐに、ゴミを捨てていこうと思いました。  
また、協力して琵琶湖をきれいにしたいです。

(1年)

まず、琵琶湖を見た時、悲しくなりました。  
こんなにゴミを捨てる人がいるのだと。私は  
不燃物を中心に清掃活動に取り組みました。  
スピーカーが捨てられているのを見て信じら  
れませんでした。清掃しなくてもきれいな琵  
琶湖であってほしいです。

(3年)

(3)「びわこの日」(7月1日に関して)

生徒会執行部の企画によるボランティア活動  
として、グラウンドの除草作業を行った。この活  
動は「月一ボランティア(生徒会執行部が月に一  
回ボランティア活動を企画するもの)」として実  
施した。6月には夏の教室扇風機の使用に向けボ  
ランティアを募集し、扇風機の掃除を行った。



【生徒ボランティアによる除草作業】

(4)「県下一斉清掃の日」(12月1日に関して)

生徒会執行部、生徒ボランティアのリードによ  
る校内の落ち葉集めを実施した。校内美化を考  
える良い機会であった。また、集めた落ち葉で腐  
葉土づくりを行い、今後の花壇整備に活用する予  
定である。



【校内の落ち葉集め】

(5)1年生「農業体験」

「湖東定住自立圏地産地消事業」の一環とし  
て、彦根市役所農林水産課の方々、松原農業組  
合の方々に協力と指導をいただき、松原農場でトウ

モロコシ(スイートコーン・ポップコーン)の苗  
植え、ジャガイモの種イモ植え、トウモロコシ、  
ジャガイモの収穫を実施した。収穫後にはお世話  
になった方々を招いて、特別支援学級が主となり  
「おでん屋さん」を開催し、労をねぎらった。



【スイートコーンの収穫】

(6)「緑のカーテン」の設置

教室、校長室、職員室の南面窓ぎわにゴーヤの  
苗植えと育成をコンピュータ・ボランティア部が  
実施した。この取組は、これまでから3年間続け  
て行っている活動である。

#### 4 成果と課題

今年度は、持続可能な地球環境づくりに向け  
て生徒会執行部を中心に活動し、全校生徒が身  
近な環境について考えることができた。また、  
湖岸清掃や校内清掃など、様々なボランティア  
活動に積極的に取り組むことができた。特に小  
中合同湖岸清掃を通して、きれいな琵琶湖、自  
分たちの誇れる琵琶湖にしたい、という意識が  
向上している。つまり、自分の住む町に誇りをも  
つことが、持続可能な開発を実現させるための  
地球環境維持への第一歩であると考えている。し  
かし、ボランティア活動に一生懸命に取り組む  
一方で、毎日の清掃活動に真面目に取り組めない  
生徒もあり、これからの課題となっている。

また、今年度は、滋賀県環境教育モデル校、  
ならびにエコ・スクールにも登録し、教師が年  
間を通しての計画を立てた。そこで今後は、「び  
わこの日」などの取組だけでなく、生徒会執行  
部が中心となって、企画・運営する形を増やし  
ていくように生徒の意識化をさらに進めたい。

学校名	彦根市立西中学校
住所	彦根市金亀町8-1
電話番号	0749-22-4808
E-mail	nishi@mx.hikone.ed.jp